



この野鳥のこの羽に注目！ ～シジュウカラの青い羽

見慣れた野鳥にも、実はこんな羽がありますよ！ というお話。

●シジュウカラ：翼に隠れている背中から腰に青い羽があり、尾羽まで続いています。翼を広げると見えますが、その瞬間を見るのは難しい。たまたま撮れた写真(右)で青い羽をご覧ください。

●ハシブトガラ：黒い頭部の目の後ろ辺りに非常に小さなメッシュのような白い羽がある個体があります。肉眼ではほとんど気づかないですが、写真(写真下左黄色丸囲み)で見ると分かります。

●ゴジュウカラ：北海道の亜種シロハラゴジュウカラは、その名の通りお腹側がほぼ白く、脇腹に橙色の部分があります。これ、ほとんど橙色がないもの(写真下左から2枚目)から、本州以南の亜種のように薄い橙色が広がっているもの(写真下左から3枚目)、脇腹の近くの一部の羽が濃い橙色のもの(写真下右)まで個体差があり、それらの中間のものも見られます。



●カケス：亜種ミヤマカケスともども翼に青い羽があり(写真左)、飛翔時にきれいに見えるのはもはやバーダーの間ではよく知られたところ。このカケス、遺伝子分析により、ユーラシア大陸に生息する幾つかの亜種は、主に鹿児島県に生息する日本固有種ルリカケスから種分化したと推定されるという研究結果が、国立科学博物館で行われていた「特別展 鳥」でも紹介されていました。カケスは日本から世界に広がっていったんですね。

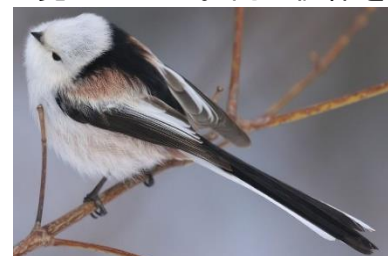
●キレンジャクとヒレンジャク：翼の次列風切羽の先端に小さな赤い部分があります。キレンジャクの赤い部分は(右写真左)ロウ物質であるのに対し、ヒレンジャクのそれは(右写真右)羽そのものが赤くなっているという違いがあります。素材は違っても、同じ部分が共通して赤くなることには、何かの意味があるのでしょうか？ 興味深いところです。



●コゲラ：雄は側頭部の目の後ろに小さな赤い羽がありますが(写真右)、目視ではほとんど見えません。同一個体を連続撮影したのに他の羽に隠れて赤い羽が見えたり見えなかったり、見えないから雌であるとは言いきれません。



●シマエナガ：巷にあふれるほとんどのシマエナガグッズは、背中側の翼の肩の近くにあるワンポイントが茶色くなっています。でも、ほんとうに茶色でしょうか？ 左写真をご覧ください。写真による色写りの違いは置いておくとして、茶色には見えないと思いますがいかがでしょうか？ えんじ色、もしくは葡萄色では！？！



レストハウス「ぽるく」は4月 11 日金曜日 10 時オープンします！

レストハウス「ぽるく」は、今年も軽食やドリンクそして各種雑貨などを取り揃え、皆様のお越しをお待ちしております！ 土曜日のマルシェも開催予定です。

また今年から、土日を中心に不定期で、森の家の前にて、専用の窯を使ってその場で作った焼き芋を販売しております。こちらもぜひ一度ご賞味ください！



旭山野鳥メモ 68 トラツグミ

トラツグミ White's Thrush *Zoothera aurea* スズメ目ヒタキ科
夏鳥、道内で一部越冬。今冬は真駒内公園で見られた。旭山記念公園でも過去に2月に見られたことがあり、今冬も3月に現れた。

雌雄同色、ハトを細くしたくらいの大ささ。虎を彷彿とさせる体の斑点模様が名前の由来。右写真は幼鳥と思われ園内で秋に撮影。

夜中に「ヒー」「ヒョー」と寂しげな声で囀る。雨や曇りの日には昼間の午前中に囀ることもある。細い声だがよく通る。

その声が昔は「鵲(ぬえ)」という不気味な怪物の鳴き声とされていたが、正体はさほど大きくはない野鳥だった。1981年公開、横溝正史原作の角川映画、ビートルズの Let It Be が主題歌として使われた『悪霊島』のキャッチコピーが「鵲の鳴く夜は恐ろしい」、覚えている人もいるかと。

地上で採餌する際には足を前後にこまめに出したり引いたり体を上下にゆすったりする奇妙な行動をとり、それが今や「トラダンス」として知られ、インスタ界でも近年人気上昇し動画がよく上がっている。

本来4月10日頃に渡ってくる。当初は姿を見ることもあるが、5月以降は囀りは聞かれても、ほとんど目視観察できない。以前は秋にもたまに林縁などで見られていたが、最近ほとんど話を聞かない。人があまり来ない山地の広葉樹林では、昼間に目にすることもある。見えなくても存在感は割と大きい野鳥ではないか。



2025年4月の野鳥トピックス

◎夏鳥初認①ヤマシギ 3/23 ②ホオジロ 3/24 ③キジバト 4/1

●シマエナガ：巣作りが始まっています（追いかけないで！）

●キクイタダキ：3月後半から観察機会が増えてきています

●シロハラ：3月も毎日見られ、結局数羽が越冬しました

●ツグミ：こちら冬の間普通に見られまだ多く残っています

●アトリ：今冬は数羽が園内でほぼ毎日見られています

●シメ：数は少ないですが園内でほぼ毎日見られています

●ウソ：園内で午前中に見る機会が増えてきました（右写真み）

●イカル：本来夏鳥も今冬は越冬しほぼ毎日見られていました

●マヒワ：多いと100羽前後の群れが見られます ●カワラヒワ：「ギューン」と囀り始めました

●クマゲラ：園内での観察機会は比較的多いです ●ヤマゲラ：春に向け観察情報が増えてきました

※4月はウグイス、アオジ、メジロ、クロツグミ、ヤブサメ、センダイムシクイなど次々渡来します！



「旭山記念公園フォトコンテスト」作品募集！

レストハウス「ぼるく」では、今年も「旭山記念公園フォトコンテスト」を開催します。

今年のテーマは「動物」、2024年4月以降に旭山記念公園内で撮影された「動物」、

エゾリスなど哺乳類、野鳥、爬虫類から昆虫やその他虫まで広く対象となります。

作品応募期間は4月19日（土）～5月11日（日）、どなたでもご応募できます。

最終審査に残った20点は、5月19日（月）～6月8日（日）の間「ぼるく」内に展示の上、みなさまの人気投票により順位が決まります。その他詳細については、右上のQRコードからご覧ください。

みなさまのご応募、ならびに人気投票のご参加をお待ちしております！（下の写真は応募作品ではありません）



POLUKU_ASAHIYAMA



エゾリス



キビタキ



ニホンカナヘビ



ミヤマクワガタ



公式サイト

「アカゲラ通信」 第138号 2025（令和7）年4月5日発行

（公財）札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

<https://www.sapporo-park.or.jp/asahiya/>

〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

電話 011-200-0311（金・土・日・祝日 10時～16時）FAX 011-200-0351